

# 植 物 観 察 会

こ  
な  
ら  
楽  
舎  
里  
山  
班



雑木林に生える貴重な植物の生態を説明



ぬくもりあふれる地図で参加者の好奇心も向上



身近な植物の話題に話は尽きない

2012年4月9日(月)12:00～・15:45～  
観察地: 明治大学生田校舎内西側斜面



荒れた藪だった場所も里山班の管理で里山の風景がよみがえった状況を説明する農学部2年古田さん。  
生田ボランティアセンターこなら楽舎学生スタッフ里山班は、校内に残る里山の植生を守り育てるほか、自然への理解と興味を伝える観察会などを年間通して行っています。

ペンペン草やヒメオドリコソウが広がる原っぱは、つい昨年まで外来種がはびこり、捨てられた枯れ木とゴミで埋もれた場所でした。人の手でほんの少し、光を与えるだけで、こんなに野草が芽吹いています。

観察会では、野に咲く草花を紹介するだけでなく、保全活動の意義を伝え、環境へ貢献する喜びを参加者と分かち合いました。

参加した農学部の1年生は「自然が好きで農学部に進学したが、植物の面白さにはまりました。もっと植物を知りたいと思いました。」と感想を述べていました。

観察会後はこなら楽舎で振り返りを行い、勉強したことを環境貢献に生かす楽しさを話し合いました。「やって、みて、考える」里山班の活動スタイルが個性の成長を育てていると、主催側の学生スタッフが改めて実感した観察会になりました。